

住宅エクステリアの パース・スケッチ・ プレゼンが 上達する本

松下高弘+

エムデザインファクトリー 著

使えるテクニックが
満載！
表現の幅を広げ
ワンランク上の
プレゼンを
目指そう！



彰国社

住宅エクステリアの
パース・スケッチ・
プレゼンが
上達する本



松下高弘+

エムデザインファクトリー 著

はじめに

「エクステリア」と「手描き」は相性バツグン！

ここ10～20年の間に、注文住宅、分譲住宅のプレゼンにおいて、図面は、CADで描いたものを納品するのが当然の時代となり、手描き図面を見るのは非常にまれになりました。

不動産、建設業や広告代理店がつくる、住宅やマンションなどのパンフレットやチラシにのっているパースは、やはりCGを使っているものが大半です。CGパースは写真のように正確ですが、一方、どれも同じように見えて仕上がりに特徴がない、または冷たい感じがするなどの声が、デザイナーから聞かれるようになりました。

そんな状況の中で、臨場感や生活感を表現できる味わいのある「手描きのパース」が静かなブームになってきています。

「手描きのパース」は、ペンや鉛筆を使ってスケッチを描きます。線の太さの強弱でメリハリをつけ、さらに色鉛筆や筆で塗れば着彩のタッチによって、安らぎや和らぎを表現できるプレゼン手法です。

もともとエクステリアは、低・中・高木、地被、芝生の植栽や土、石などの、自然な「なまもの」で演出されています。その自然なものを、「手描き」でプレゼンするわけですから、雰囲気のあるプレゼンになることは間違いありません。

本書は、住宅エクステリアの、プレゼンテーションにおいて、パースの構図のつくり方ややさしい描き方、また人物や車、植栽など、図の印象を大きく左右する点景の描き方、カラーリングや陰影などの演出方法などプレゼンテーションにおいて役に立つポイントを簡潔にまとめました。さらに部分的にCADを併用したテクニックについても触れています。

手描きが苦手、という人でも、本書を見て真似をしながら、気軽に取り組んでいただけると、だんだん力がついてくると思います。ぜひ手描きの奥深さに目覚めてください。

2013年5月 松下高弘



はじめに 「エクステリア」と「手描き」は相性バツグン！	3
-----------------------------	---

1 パースの基本

1 パースの意味と用語	6
2 図法による見え方の違い	8
3 いろいろなアングル	10
4 エクステリアのアングル研究	11
5 構図のつくり方	12

2 アイソメとアクソメ

1 アイソメとアクソメの表現	13
2 アイソメとパースの違い	14

3 パースの描き方

1 1 消点パースの描き方（グリッド図法）	15
2 2 消点パースの描き方（グリッド図法）	20
3 立面図に奥行きをつけて描く（1 消点）	26
4 平・立面図の比率から描く（2 消点）	31
5 1 消点＋2 消点のパースの描き方	35

4 アイソメ・アクソメの描き方

1 アイソメを描く	40
2 アクソメを描く	43

5 陰影で立体感を強調する

1 陰影の種類	46
2 太陽光の方向と高度	46
3 影（シャドー）を立面図とパースに描く	47
4 陰（シェイド）の濃さの順番	47
5 太陽光の方向による陰（シェイド）の濃さの違い	48

6 点景の表現

1 車の描き方	49
2 植栽の描き方	50
3 人物の描き方	55
4 車のサンプルリスト	57

5 樹木のサンプルリスト	60
6 人物のサンプルリスト	62

7 線画のスケッチ表現

1 線の表現	64
2 立体の表現	65
3 画材と道具	65
4 スケッチの手法	67
5 道具によるスケッチ表現の違い	69
6 線画スケッチ表現のまとめ	71
7 線で描いた図面を立体的に表現する	72

8 カラーリングの表現

1 画材の特徴	73
2 色鉛筆による表現	74
3 マーカーによる表現	77
4 透明水彩絵の具による表現	81
5 パステルによる表現	84
6 画材による空と道路の表現の違い	86

9 写真を応用する

1 現場写真を使う	89
2 写真を使った作品例	91

10 CADと手描きを併用する

1 CAD パースに手描きで植栽を加える	92
2 CAD パースに手描きでエクステリアを加える	93

11 プレゼンテーションの仕上げ

1 プレゼンボードのレイアウト	96
2 文字や文章での説明は簡潔に	98
3 色彩を利用してイメージをつくる	99
4 ボードにパネリングする	100
5 製本する	101

参考文献／資料提供者・協力者	102
----------------	-----

おわりに	103
------	-----

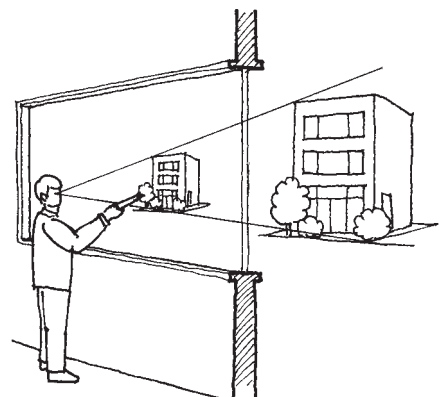
パースの基本

① パースの意味と用語

① パースの考え方

パースとは、英語のパーспекティヴ (perspective) の略語で「透視図」という意味です。一般にはパース (pers.) と呼ばれ、遠近法のひとつです。

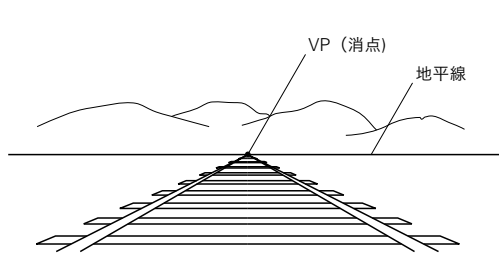
人の目は、手前から奥に遠ざかるにつれて、対象物が小さく見えていきます。これを2次元に表す図法が遠近法です。図のように、たとえば立っている人が窓ガラス越しに対象物を見ている。そのガラスに映った対象物を、そのままガラスに直接マジックでなぞった絵がパースとなります。



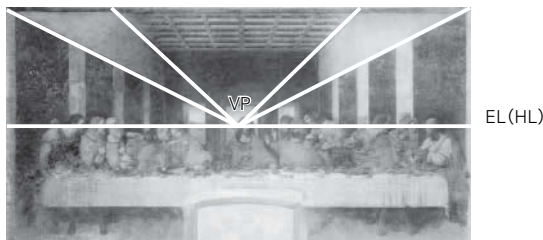
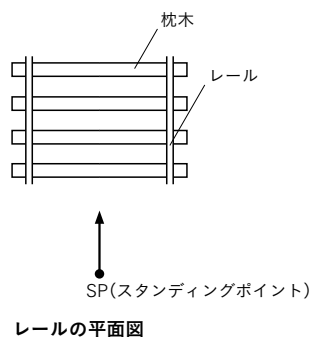
窓ガラスに映った対象物をなぞったものがパース

② 消点

鉄道のレールの間に立って、レールの向かう先を見た場合、2本の平行なレールは下図のように地平線上の一点で交わって見えます。この点を消点 VP (Vanishing Point : ヴァニッシングポイント) といいます。遠近法で描かれた図では、平行な2本の直線同士であっても、必ず消点で交わる法則があります。有名なレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」は、遠近法を絵の中に取り入れた彼の代表作で、この図の中にも消点があります。



平行なレールは一点で交わるように見える



レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」は中央に VP (消点) を置いて描かれている*

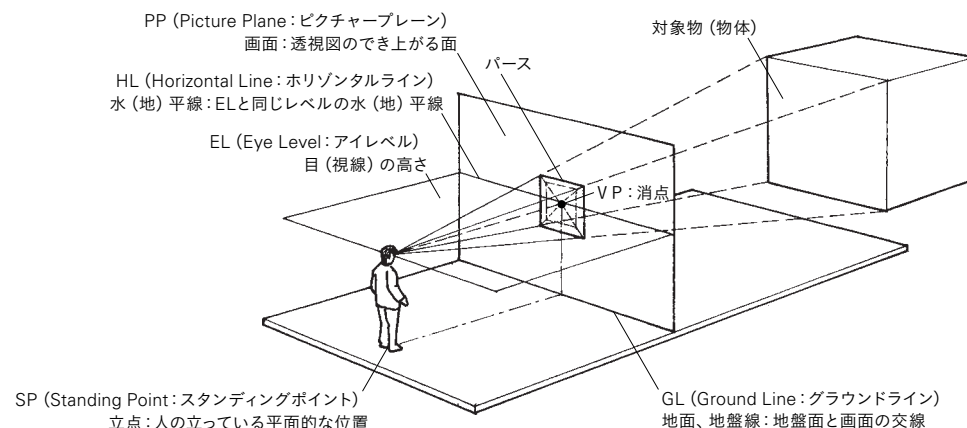
* Chiesa di Santa Maria delle Grazie, Milano, Italia 所蔵

③ パースの仕組み

①で説明したパースの仕組みを図法的に表現したのが下図です。

まず、HL (Horizontal Line : 水 (地) 平線) という意味で、パースの中でも地平線として表現されますが、実は下図のように表現するとき、HL は、見ている人の目の高さ EL (Eye Level) と同じ高さとして表現されます*。VP は必ず EL の上に来ます。また VP は、SP (Standing Point) から PP (Picture Plane) に下ろした垂線の延長線上に来ます。SP、PP、EL、VP の関係を理解しましょう。

*一般に、HLをELと称して使っていることが多いため、この本ではHLをELに置き換え、解説していきます。

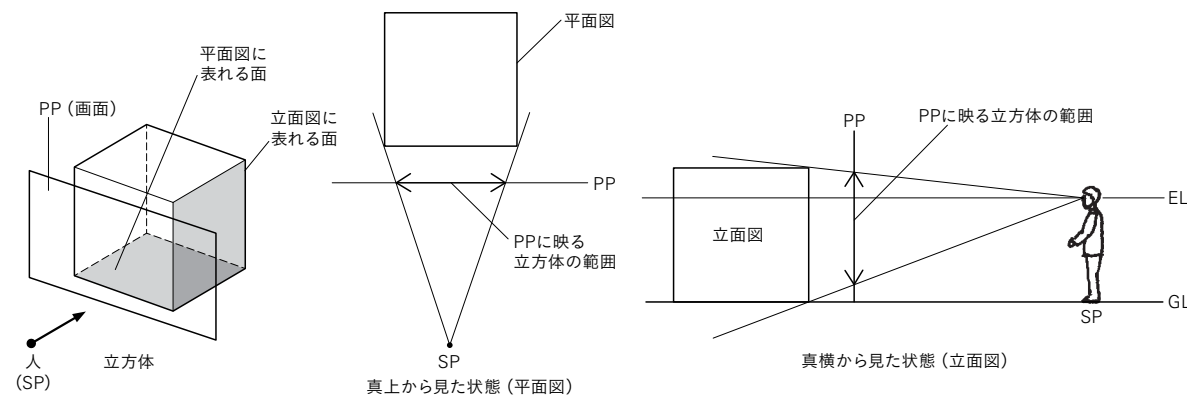


SP、PP、EL、VPの関係

④ SP と PP の関係

それでは、立方体を使って透視図の説明をします。

一番左の図のように、立方体のある離れた距離から見ています。それぞれ平面図、立面図も示します。PP (画面) に映る立方体は、真上および真横から見た状態では→の範囲に各々映ることになります。PP が SP に近づけば、見える範囲は狭くなり、PP が遠ざかれば見える範囲が広がります。

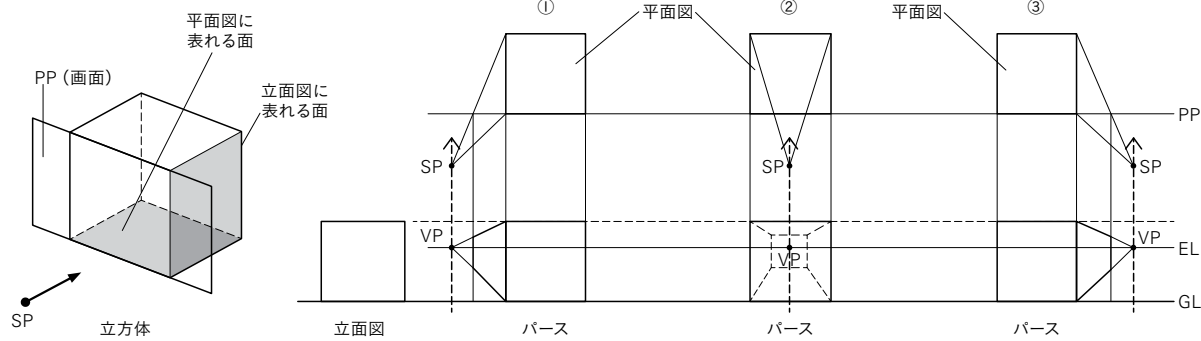


SPとPPの関係

⑤ SP の位置によるパースの見え方の違い

下図の①～③はそれぞれの SP の位置によって、立方体はどう見えるかを作図したものです。当然のことながら①は正面と左側面、③は正面と右側面が見え、②は正面のみしか見えません（便宜上、平面図は PP に接した状態にしています）。

なお、この図法は 1 点透視図法（1 消点）といえます。SP を通る垂直線上に必ず VP があるのが特徴です。



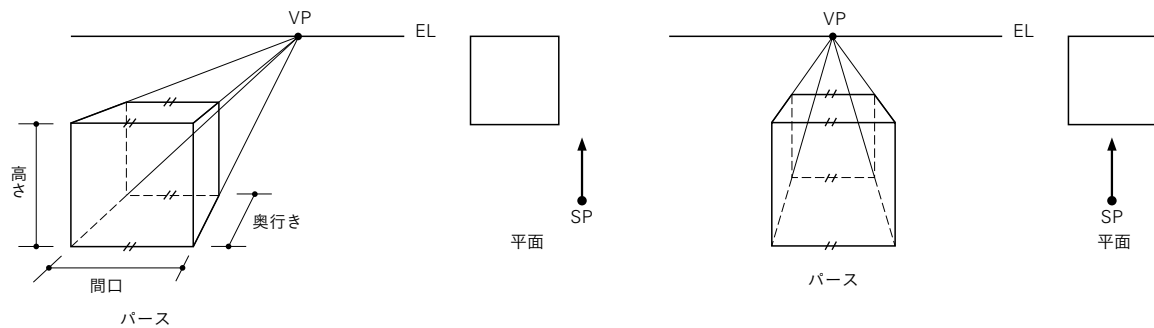
SP の位置による立方体の見え方の違い

② 図法による見え方の違い

① 1 点透視図法（1 消点）

下図は、1 点透視図法で描いた立方体です。間口方向の // のマークを付けた辺はすべて、線 EL と平行となります。また、高さ方向の線は EL と垂直になります。奥行き方向はすべて、消点（VP）において交わります。SP の位置の違いにより、立方体の側面の見え具合が違います（① ⑤参照）。

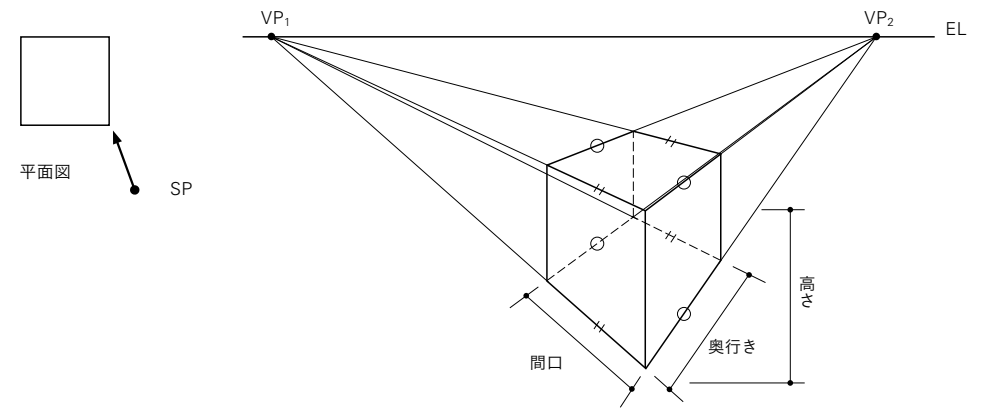
1 点透視図で作図を行う場合、間口方向に見せたい立面図を置くと、図面の間口、高さの寸法の比率をそのまま使用できるところが便利です。



1点透視図法

② 2 点透視図法（2 消点）

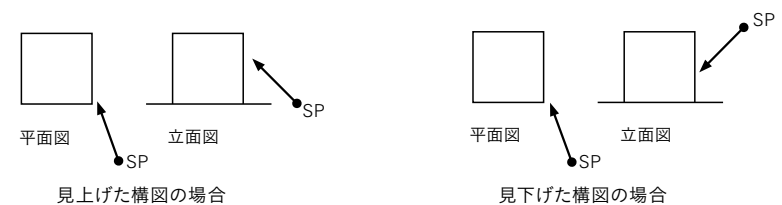
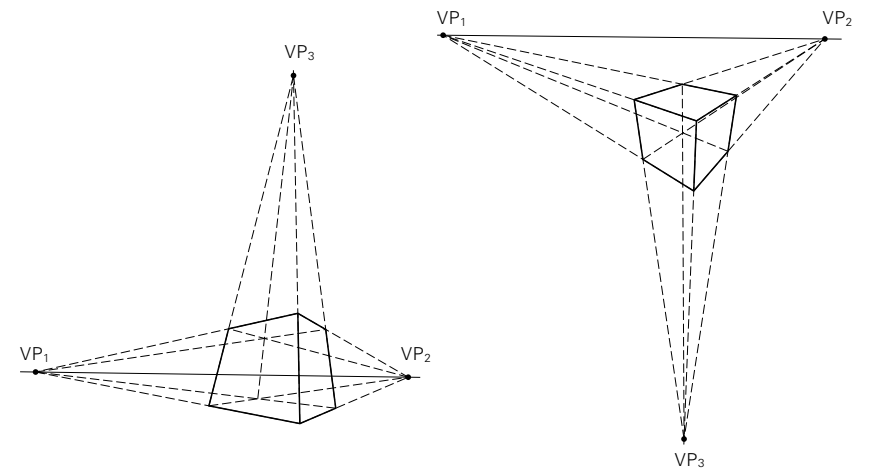
2 点透視図法は、消点が 2 つあり、図がリアルに見える反面、作図が多少難しくなります。図の立方体では、// マークの付いた線は VP_1 に向かい、○マークの付いた線は、 VP_2 に向かいます。高さ方向の線は垂直となり、消点を持ちません。2 つの消点は必ず EL に引かれた水平線上にあります。



2点透視図法

③ 3 点透視図法（3 消点）

3 消点は垂直方向にも消点を持ち、見上げたり、見下げた構図を描くことができます。手前のものは大きく、奥のものは小さく見えるという透視図の特徴がより強調され、図のように見上げの場合は下部が、見下げの場合は上部が大きく表現されます。CAD で図面やパースを製作するオペレーターにはなじみのある構図ですが、図法上、高さ方向にゆがみが出て対象物の形状がわかりにくい場合が多いのが欠点です。インパクトのあるパースを描くなどの演出効果は優れていますが、構図の設定に慣れていないと使いこなすのが難しい図法です。

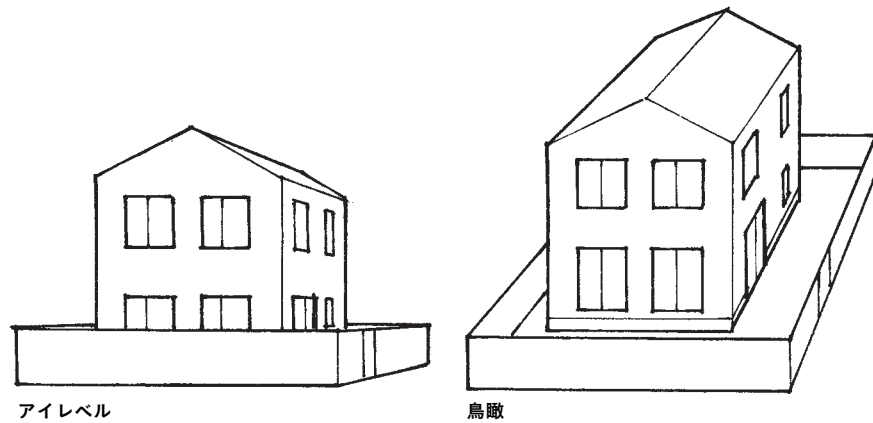


3点透視図法

③ いろいろなアングル

パースを描くとき、最初に決めなくてはいけないのが「アングル」です。「アングル」とは、敷地全体および敷地の部分のある角度、ある高さから見たときの見え方の具合、もしくは、その構図のことをいいます。

人の立った視線の高さ（地面から1.5mの高さ）を「アイレベル」、視線の高さ（EL）が1.5mより高い場合を「鳥瞰」と呼んでいます。一般に建物の高さよりも高い屋根面に見える状態は「鳥瞰」、視線が屋根面より低い場合は「半鳥瞰」と呼ばれています。図のように、アイレベルより鳥瞰のほうが、敷地をよく見ることができます。



①鳥瞰（半鳥瞰）パース

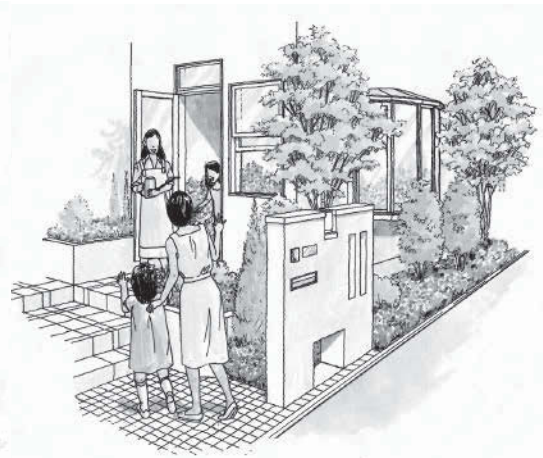
ELを高くすると、敷地の見える範囲が広がり、エクステリアと住宅を共によく見せることができます。ELが高くなればなるほど説明に適したアングルになります。ちなみに、下左のパースは人が2階の床から立ったELで半鳥瞰のアングルになります。敷地からSPまでの距離は20～25m程度としています。

②アイレベルパース

文字通り目線の高さのパースなので見慣れたアングルとなり、生活感や臨場感を演出できます。部分パースに至っては、門袖・門柱などのデザインの形状も施主にわかりやすく説明できます。敷地からSPまでの距離は5～7m程度が適切です。

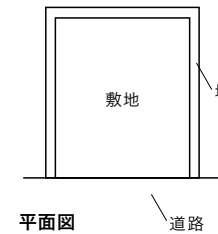


半鳥瞰パース



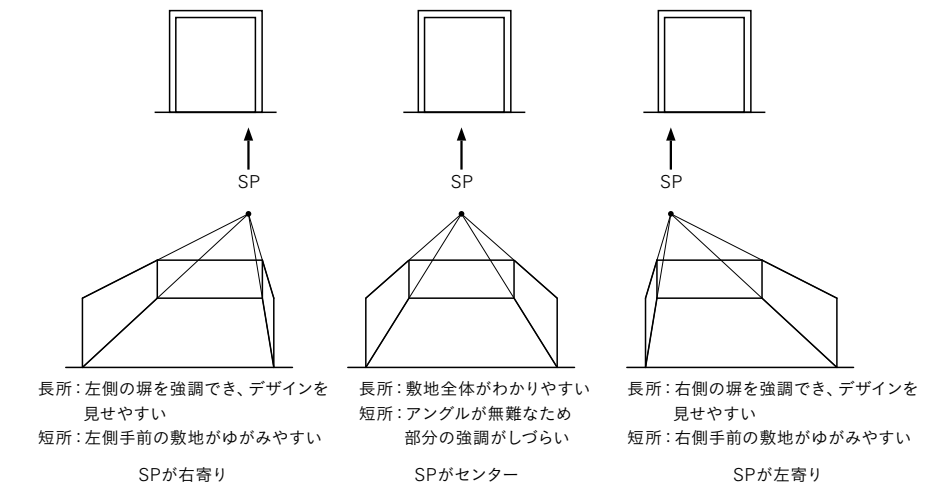
アイレベルパース

④ エクステリアのアングル研究



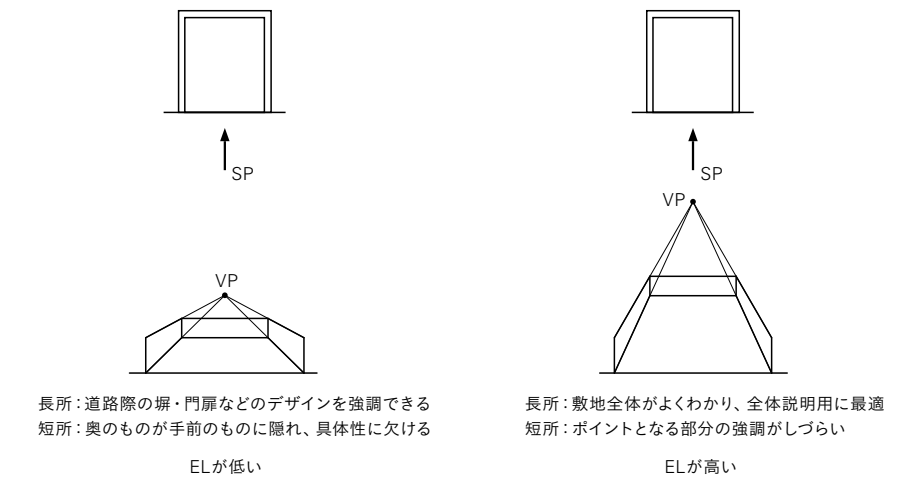
左図のように、前面道路のある長方形の敷地があります。隣地境界の3方向は塀で囲われています。この敷地を1消点で見たとき、道路側から見たアングルの違いを研究して、長所と短所を挙げてみましょう。

下図はELは同じで、SP（見る位置）を変えたアングルです。



SPの位置によるアングルの違い

下図はSPは同じで、ELの高さを変えたアングルです。



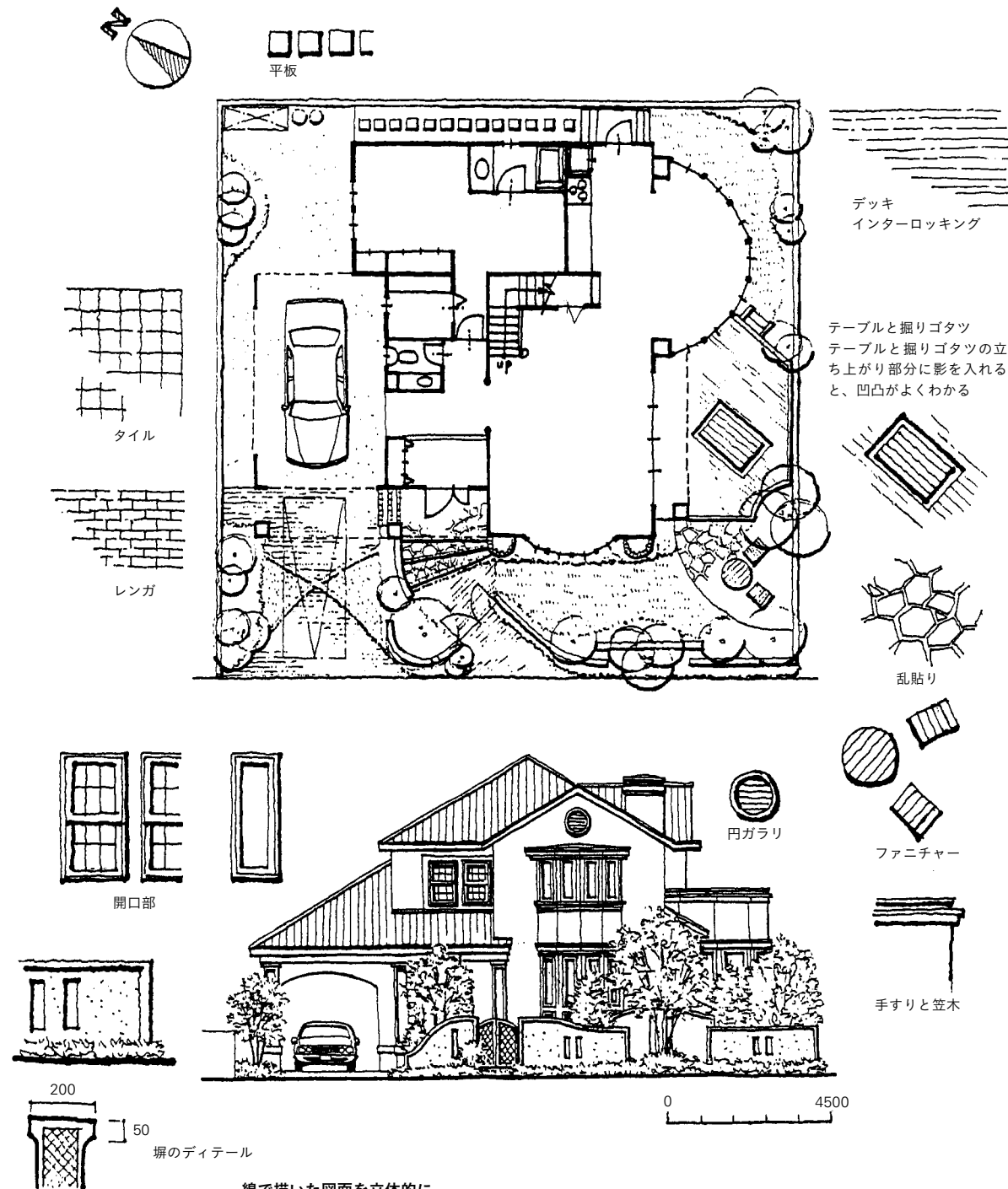
ELの高さによるアングルの違い

以上からELが高い、SPがセンターの鳥瞰のアングルは全体の説明用、SPが左右に寄っているアイレベルのアングルはイメージや雰囲気を伝える部分の説明用に適しています。なお、SPが敷地に近づくほど迫力が出ます*。

* 17 ページ One Point 参照。

7 線で描いた図面を立体的に表現する

エスキースの段階などで、平面図、立面図をイメージ的な雰囲気で描くときに、フリーハンドで表現することがあります。インターロッキングやデッキなどの線が多い場合は、破線を用いたり簡略化しながら線を引きます。光の方向を決め、住宅の窓枠、笠木、植栽、車などに太い線で影を落とすと、線だけの図面でも立体的なイメージになります。初期プレゼンに最適です。



8 カラーリングの表現

作図（透視図）とスケッチが終了すると、いよいよカラーリングです。カラーリングは、一般に、着色、着彩ともいわれています。

カラーリングに使用する画材は、色鉛筆、マーカー、パステル、透明水彩絵の具による筆塗りが挙げられます。色鉛筆、パステルはマーカー、透明水彩絵の具に比べると、インパクトに欠ける反面、重ね塗りができるので初心者でも比較的失敗が少ないという利点があります。ただし、カラーコピーをとると、明るい色が飛んでしまうので気をつけましょう。

1 画材の特徴

それでは各画材の着彩例を長所、短所を挙げながら、比べてみましょう。単色の着彩例は、左側が1度塗り、右側を2度塗りにしました。スケッチの着彩例は、鉛筆で植栽を描いたスケッチのコピーに、それぞれの画材で着彩しました。各々の画材の特徴を生かし、デザインコンセプトに合わせて、上手に使いこなすことが大切です。

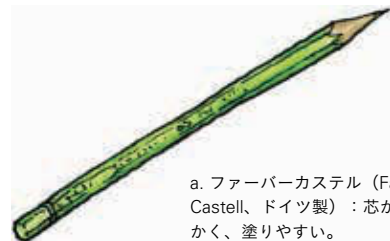
画材の特徴

	単色の表現	スケッチに着彩した例	長所と短所
色鉛筆	水に塗らす 1度塗り 2度塗り		長所：重ね塗りができるため、濃淡がつけやすく、失敗が少ない。 短所：着色に時間がかかる。カラーコピーをとると淡い色が出にくい。
マーカー	1度塗り 2度塗り		長所：短時間で仕上げられ、カラーコピーをとっても仕上がりがよく、インパクトがある。 短所：ペン先に個性があり、慣れないと塗り方が難しい。
透明水彩絵の具	1度塗り 2度塗り		長所：仕上がりがきれいで見栄えがよい。混色で好みの色がつくれる。 短所：筆塗りの技術習得が難しい。水彩用紙を手差しできるコピー機が必要。
パステル	1度塗り 2度塗り		長所：広い面積を短時間で着色できる。柔らかい、ほのぼのとした雰囲気が出せる。 短所：細部の着色が難しい。インパクトが弱い。カラーコピーをとると淡い色が出にくい。

② 色鉛筆による表現

きれいに着色するコツは線を描くように塗り込むことです。上から同様に重ね塗りすると濃く塗ることができます。芯が軟らかいので広い面の着色がきれいにできます。水に溶けるものもあります。なお、油脂を含むものは、芯が硬いことや、消しゴムで消えにくいことから、あまりおすすめできません。推奨メーカーは「ファーバーカステル：Faber-Castell」（以下、カステル）です。芯の減りが早いので、常に鉛筆削りで芯を削って作業しましょう。また、細かい部分や平面図の植栽の影などを描く場合には、硬い芯の「ステッドラー：STAEDTLER」も扱いやすい色鉛筆です。それでは、色鉛筆を使った着色の手順を解説します。参考までに図中には使用したカステルの色番を示します*。

*色番号はポイントとなるところのみを記しています。あまりガチガチにここはこの色!と決めて画材を選ぶのではなく、筆者が使った例として参考にしていただければ幸いです。



a. ファーバーカステル（Faber-Castell、ドイツ製）：芯が軟らかく、塗りやすい。

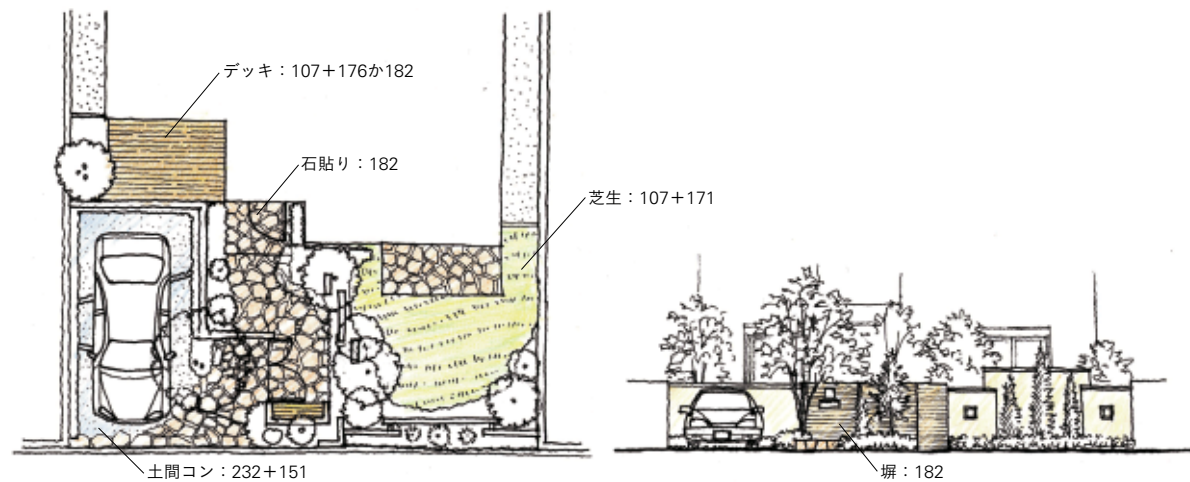


b. ステッドラー（STAEDTLER、ドイツ製）：芯が硬く、細部が塗りやすい。

色鉛筆の種類

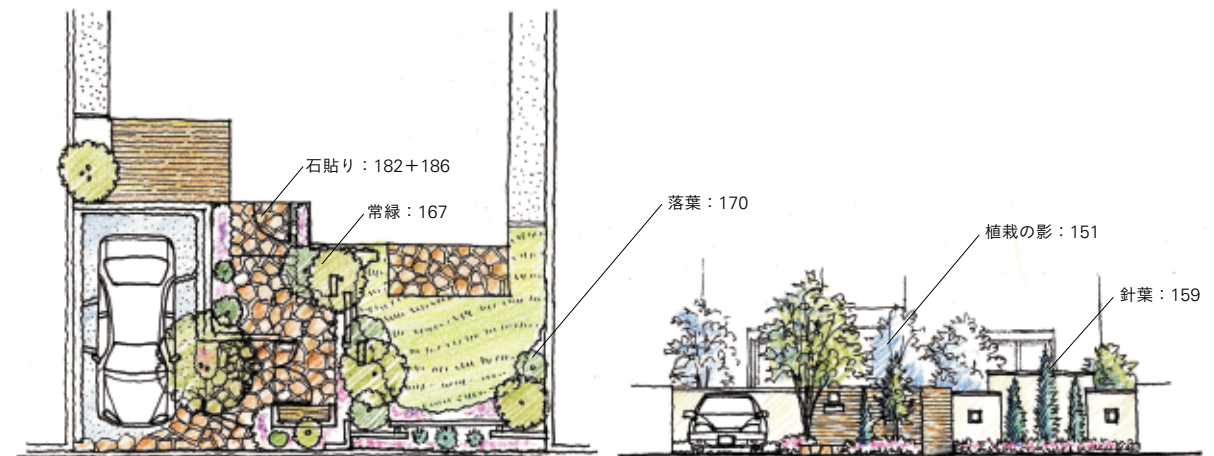
① 図面の着色例

①面積の広い部分、明るい部分から着色するのが基本です。平面図は、芝生、石貼り、木製デッキ、駐車場の順に着色します。芝生、木製デッキは下地に黄色（107）の下塗りをし、上から、芝生は171、デッキは木の色を塗り、混色することで雰囲気が出ます。土間コンは、全体的に明るいグレーを塗り、上から、部分的に青色（151）を弱く塗ると、コンクリートの単調さが避けられ、白さが引き立ちます。立面図は、塀を塗っておきます。



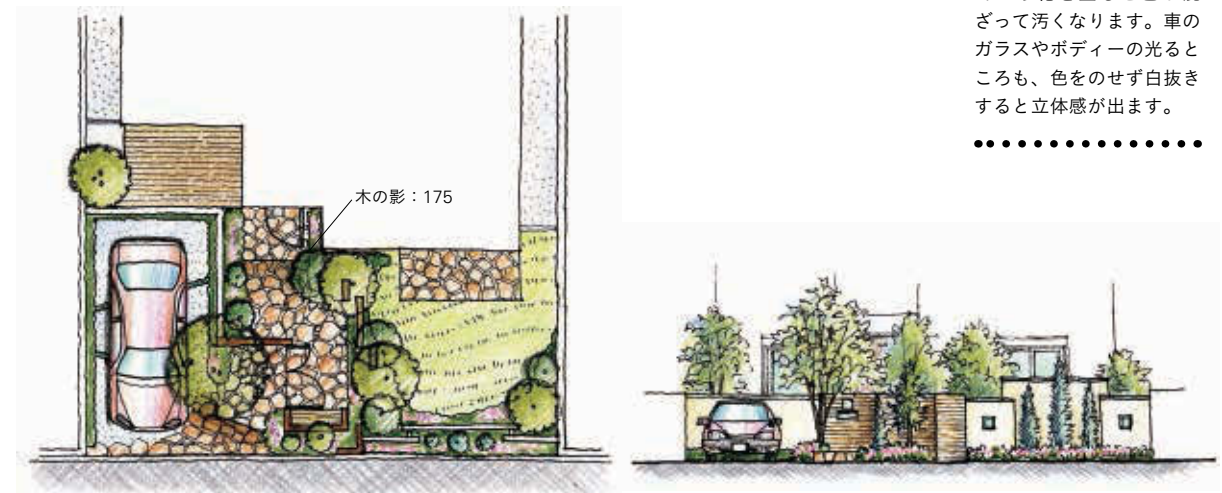
面積の広い明るい部分を塗る

②植栽を着色します。平面図は、高木→中木（→低木）の順に、明るい→暗い、となるように着色すると、立体感が出ます。針葉樹は、159などの寒色系の緑で塗ると、引き締まります。石貼りは、2色の茶系色で色ムラをつけ、上から、茶系と相性がよい黄色で、部分的に塗り重ねると質感が出てきます。低木は、葉より先に花を、描くように塗っておきます。立面図は、植栽の中・高木の葉の塊の陰影部分を青色（151）で塗り、上から、葉の色を塗って、立体感を出します。塀のタイルに色ムラをつけ、平面図同様に、低木の花を塗ります。



植栽を塗り部分的に重ね塗りする

③平面図、立面図共、②で塗った花の色を残すように低木の葉の色を塗ります（One Point 参照）。次に、中・高木に濃い緑で丸みを出し、濃茶（175）で影をつけます。また、平面図は、石貼り舗装の高低差を、立面図は、塀の凹凸の陰影をつけます。このとき奥が濃く、手前が明るくなるように塗ります。そして、平面図、立面図共通で、アクセントカラーとなる車のガラスとボディー、タイヤを塗り、濃いグレーで道路を引き締め完成です。



細部を塗り陰影をつける

One Point

白をうまく生かす!

花のまわりに白を残すと花が引き立ちます。葉を塗ってから花を塗ると色が混ざって汚くなります。車のガラスやボディーの光るところも、色をのせず白抜きすると立体感が出ます。